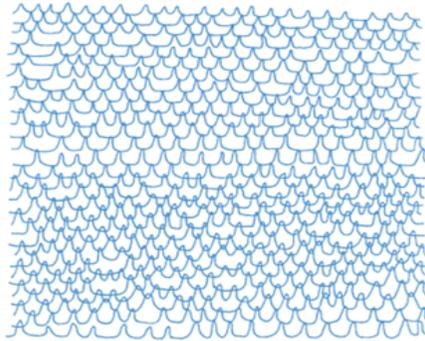


KESENUMA KNITTING



厚生労働省
「働き方の未来2035：一人ひとりが輝くために」懇談会

発表資料
2016年4月26日

株式会社気仙沼ニットイング
代表取締役 御手洗瑞子

本日の発表内容

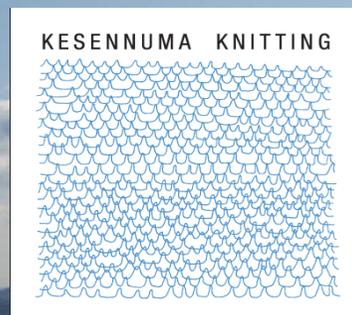
- 1 気仙沼ニッティングの概略
- 2 データから見る働き手の状況
- 3 柔軟で多様な働き方を実現するために求められた
経営上の工夫とチャレンジ(気仙沼ニッティングの例)

- 1 気仙沼ニッティングの概略
- 2 データから見る働き手の状況
- 3 柔軟で多様な働き方を実現するために求められた
経営上の工夫とチャレンジ(気仙沼ニッティングの例)



- 復興需要が過ぎたあとも、地域で持続していく産業をつくりたい
- はたらく人が「誇り」を持てる仕事をつくりたい

気仙沼から、世界で通用する
「ハイエンド・ブランド」を。



手編みのセーターやカーディガンなどをお届けする事業を行っています



なぜ編み物？



まずは「最高の毛糸」をつくるところから



デザインは、人気編み物作家の三國万里子さん



オーダーメイドのカーディガン「MM01」



MM01
15万円1,200円 (税込)

「一生ものの服がほしくて」

「寒がり屋の妻に贈りたいです」

「娘にも引き継げる服を」

着物の文化？





FIRST MODEL

MM01



FOURTH MODEL

見つける人
Discoverer



SECOND MODEL

エチュード



THIRD MODEL

リズム
Rhythm-A





編み手さんが一番よろこんだ瞬間



今では60人以上いる編み手さんたちは、ほかでは働けない状況の人が半数以上。

要介護の夫とふたり暮らし。現金収入はほしいが、外に働きに出ることは難しい。医療費で貯金もほとんど尽きてしまったし、年金だけでは心細い

食事の支度も孫の世話もあるので、週に1度家を出るのがやっと。でもなにか自分も仕事がしたい

幼稚園と小学生の子どもが2人いて、幼稚園のPTA会長も任されている。外で働くのは難しいが、すき間時間でできる仕事がしたい

まだまだ仕事はしたいが、70歳を過ぎているのでどこも雇ってくれない

震災を機に、家業だった会社を畳んだ。「〇〇屋の奥さん」と顔がわれているので、ほかの会社で働きにくい



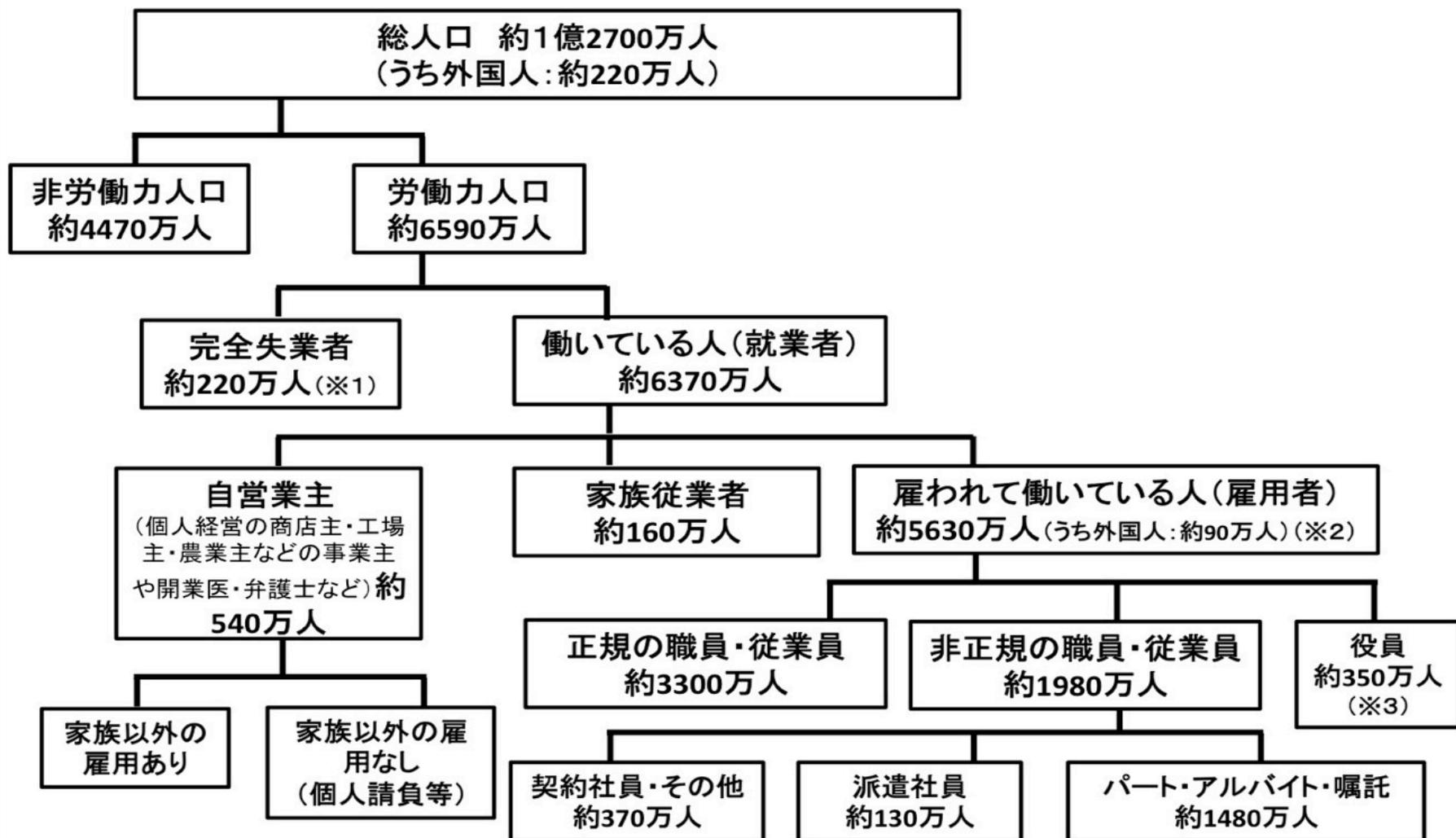
1 気仙沼ニッティングの概略

2 データから見る働き手の状況

3 柔軟で多様な働き方を実現するために求められた
経営上の工夫とチャレンジ(気仙沼ニッティングの例)

前回会議で厚生労働省よりご説明いただいた資料

働く方ごとに適用される労働関係法①



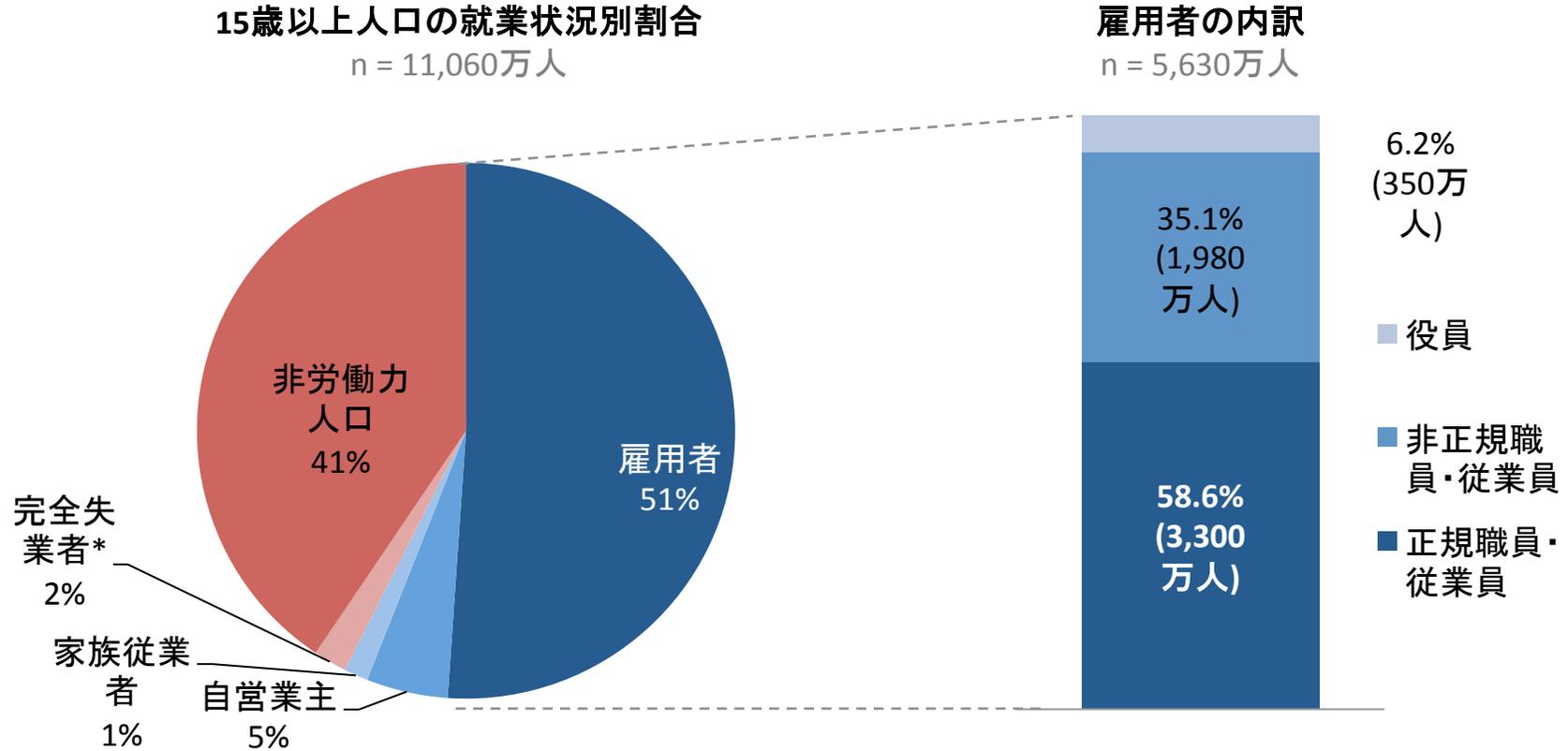
※1 完全失業者は、「仕事についておらず、仕事があればすぐつくことができる者で、仕事を探す活動をしていた者」

※2 雇用者中、公務員(約230万人)には一部の労働法規は適用されず、国家公務員法等が適用される。

※3 役員には、会社と委任契約を締結している者を含む。

2

15歳以上人口のうち、厚生労働省が労働者として把握する「雇用者」は約5割。 全体の4割が「非労働力人口」である

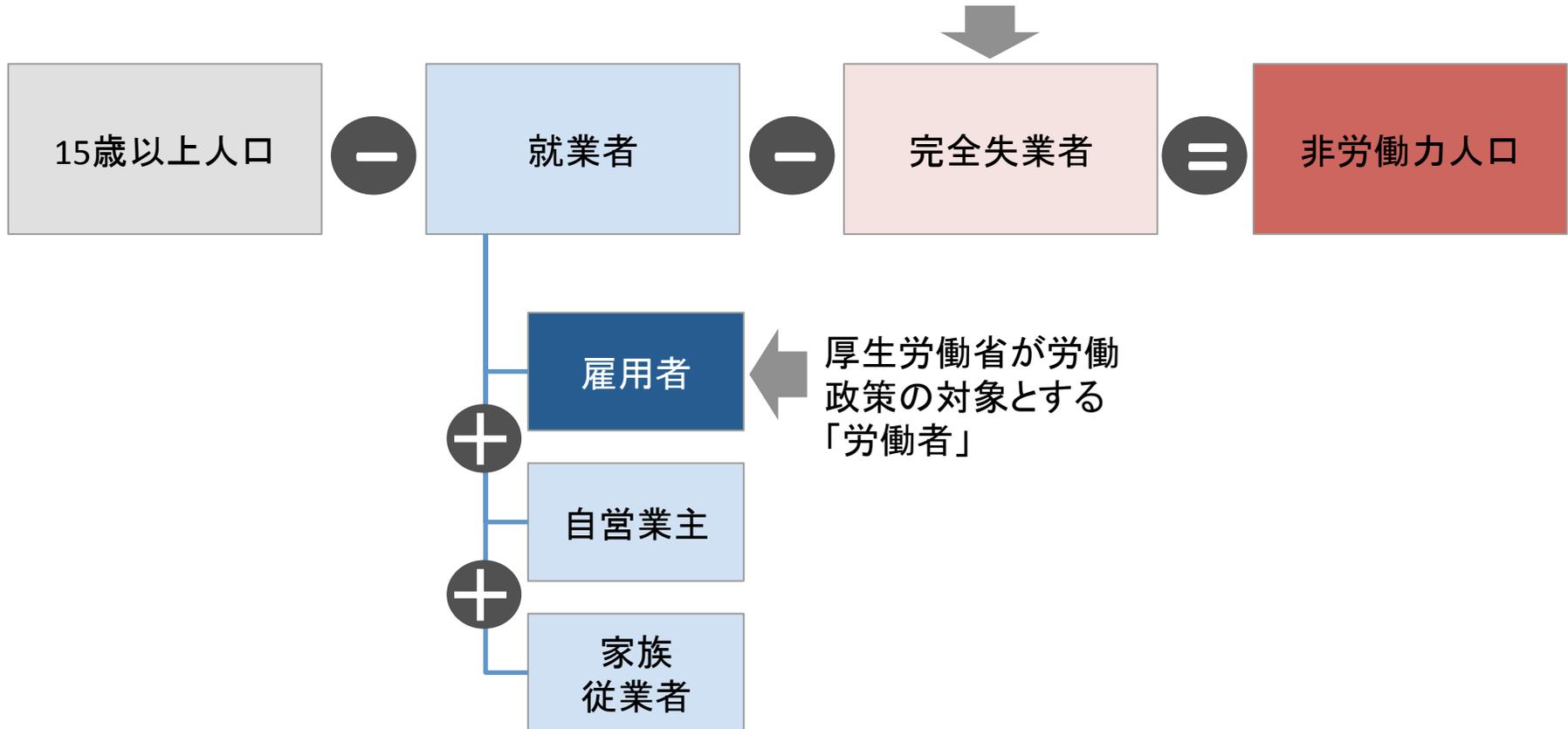


*完全失業者は、「仕事についておらず、仕事があればすぐつくことができる者で、仕事を探す活動をしていた者」

出典：厚生労働省「働く方ごとに適用される労働法関係」資料 p.2 (2016年4月)、労働力調査

「非労働力人口」とは、15歳以上の「就業者」「完全失業者」以外の人たちを指す。
就業しておらず、求職活動を行っていないと「非労働力人口」と見なされる

仕事についておらず、仕事があればすぐつくことができる者で、かつ仕事を
探す活動をしていた者

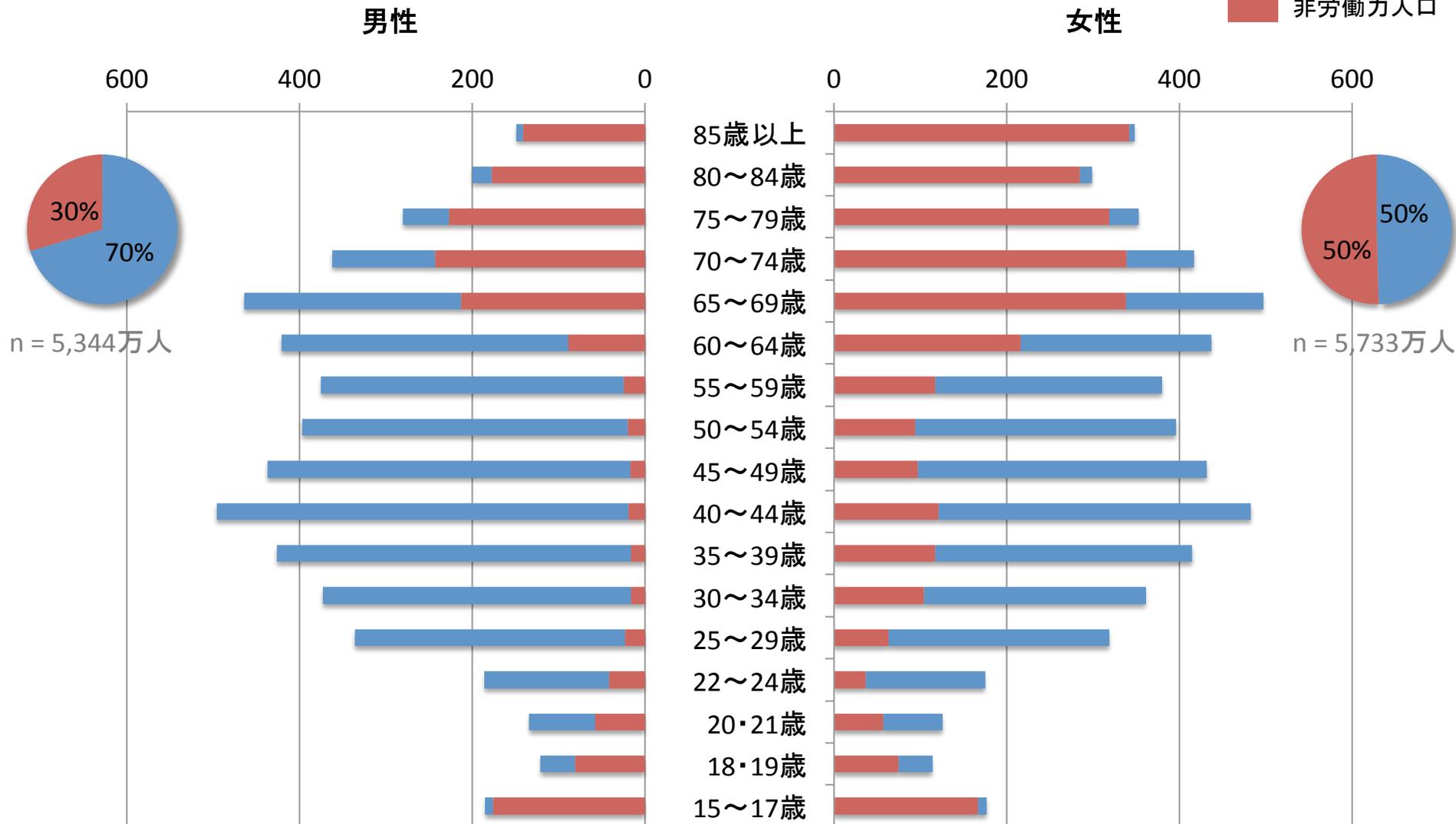


男性の3割・女性の5割が「非労働力人口」となっており、特に多いのは65歳以上

年齢別・男女別の労働力・非労働力人口

単位: 万人

労働力人口*
非労働力人口



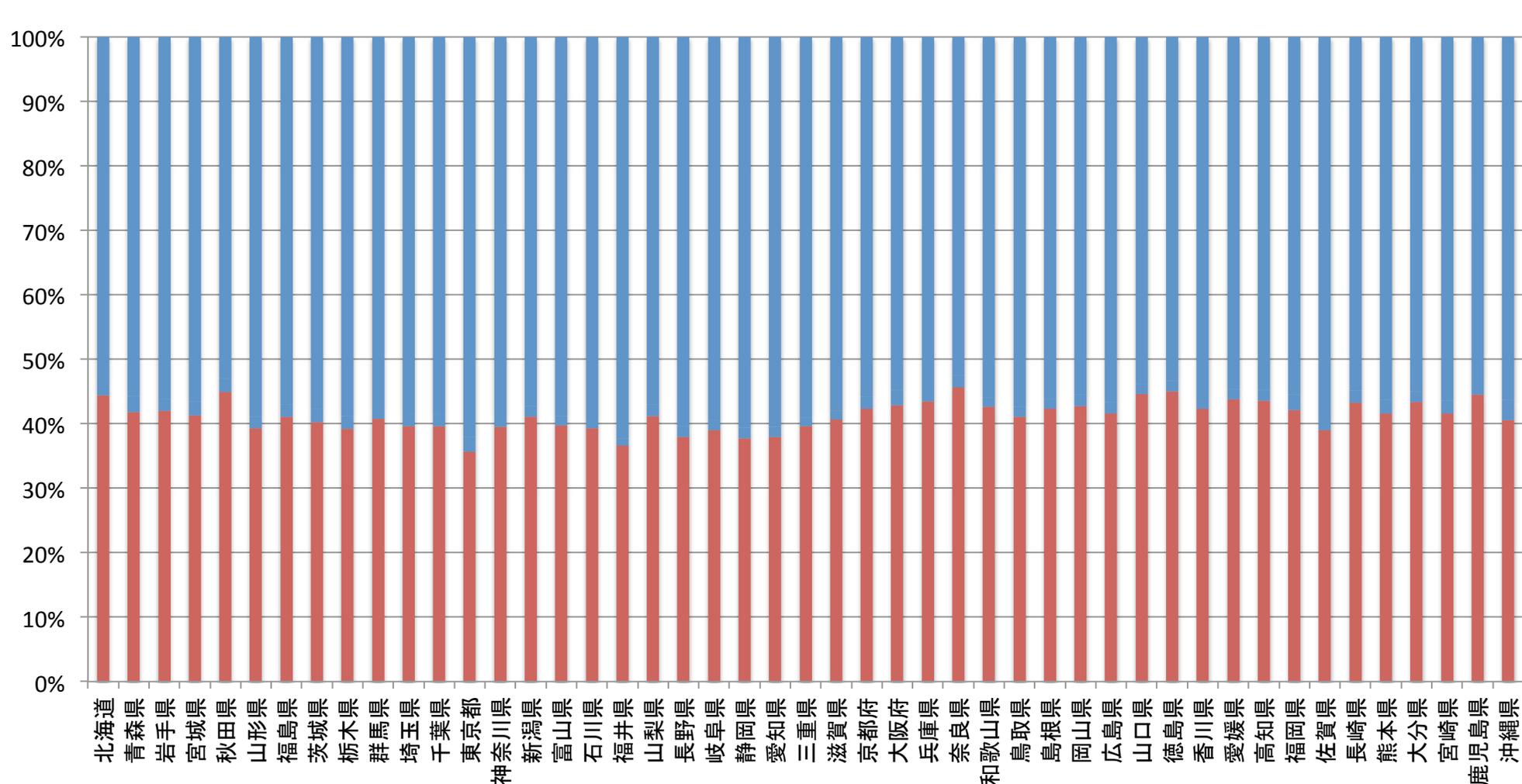
*労働力人口は、就業者と完全失業者の合計

出典: 労働力調査 2015年

「非労働力人口」の分布は地域性が低い。地方/都市にかかわらず、15歳以上人口の約4割を占める

15歳以上人口における労働力人口/非労働力人口の比率

100% = 15歳以上人口



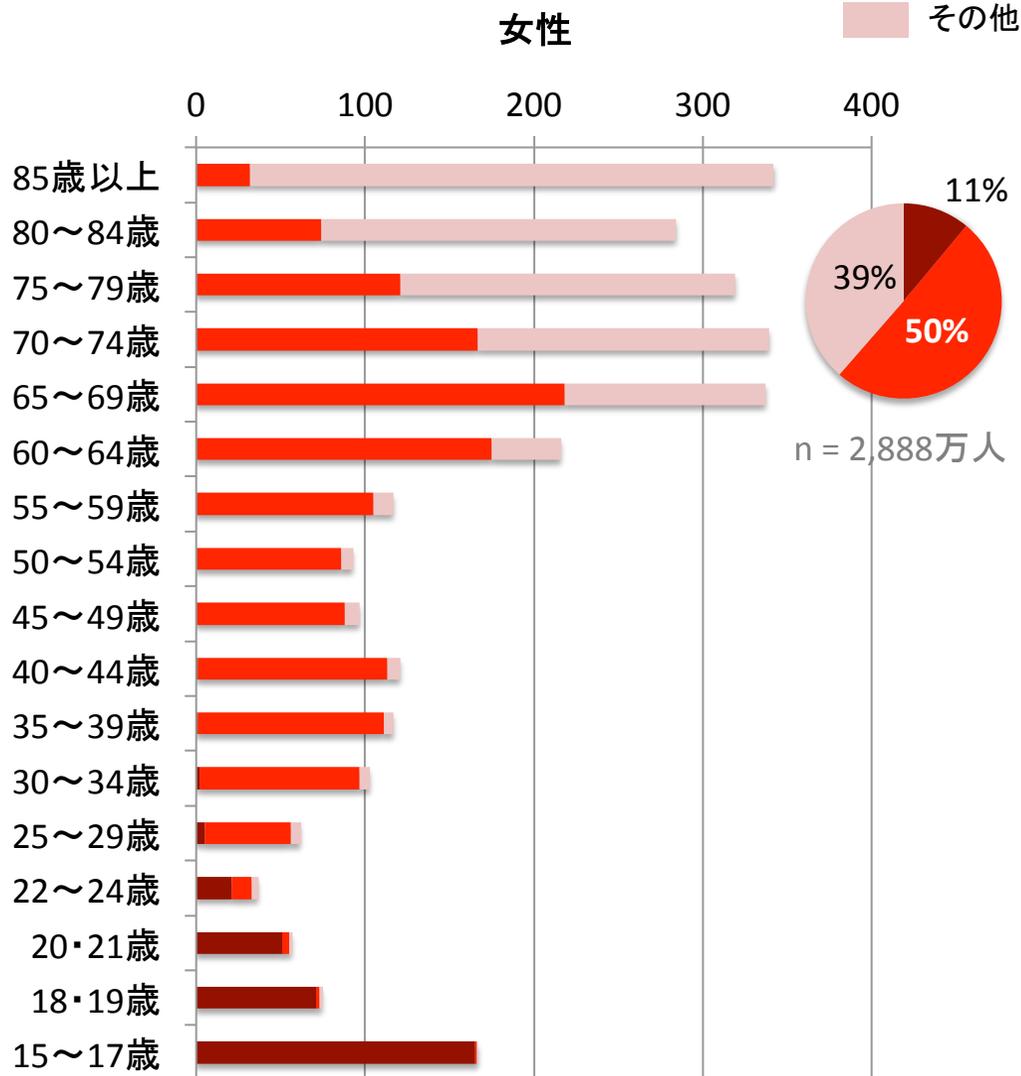
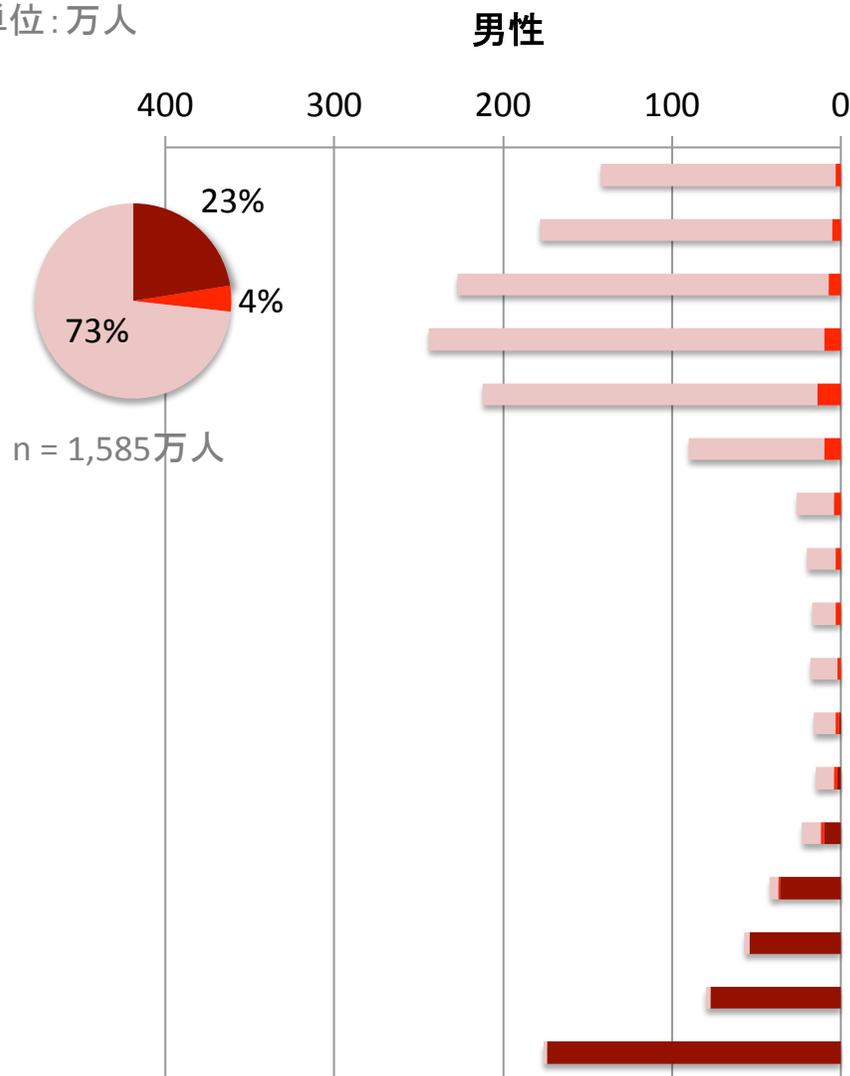
*労働力人口は、就業者と完全失業者の合計

出典：労働力調査 2015年

女性の「非労働力人口」の半数は家事に従事している人である。20代以上の全年代にあり、特に60～70代に多い

非労働力人口(就業者・求職者以外)が従事していること

単位:万人



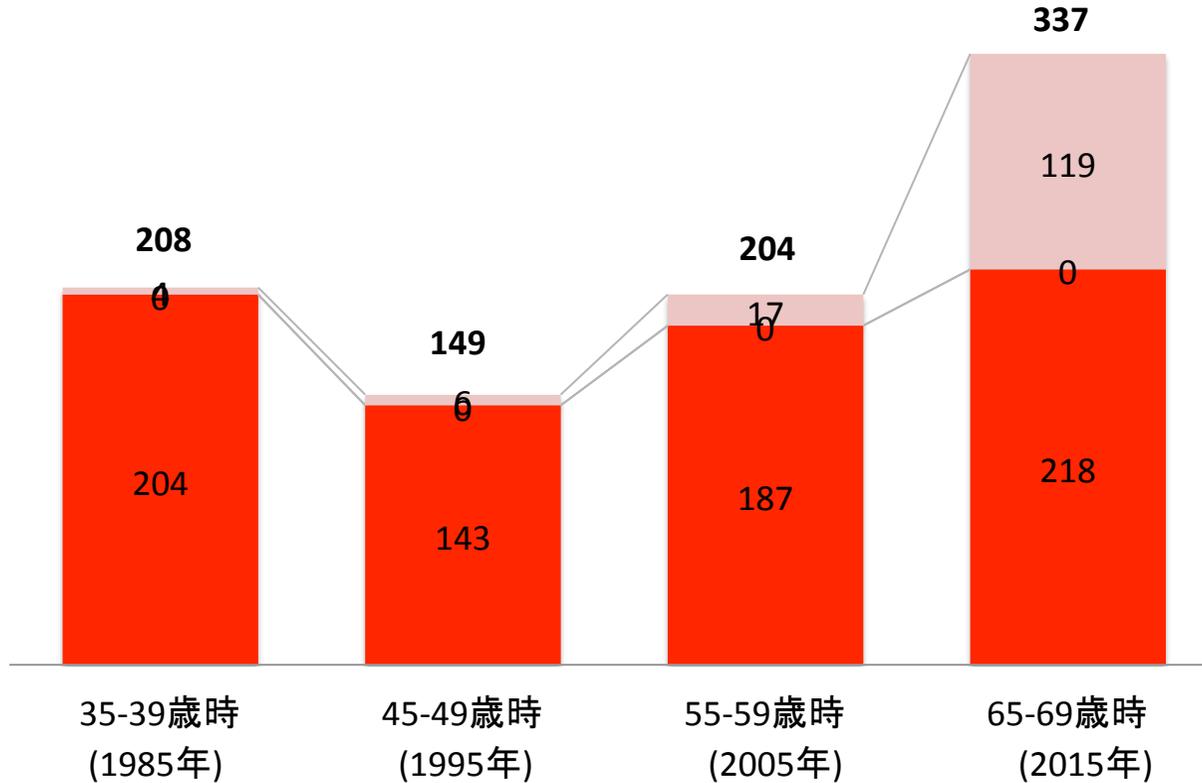
現在65～69歳の女性を見てみると、いま家事に従事している人は、仕事を退職した人より、以前から家事に従事していた人が多いことが推察される

非労働力人口(就業者・求職者以外)が従事していること

単位:万人



2015年時点で65-69歳である女性



本章のデータから考えること

- 労働政策が対象とする「労働者」は「雇用者」とされているが、「雇用者」は15歳以上人口の5割に過ぎない。また「自営業主」や「家族従業者」も含まれない。今後多様な働き方が求められることが予想されている中で、現在の「労働者」の定義は、政策空間を狭く規定していないか
- 「非労働力人口」とされる人は、15歳以上人口の4割にもものぼる。「非労働力人口」のうち、就労意志のある人たちはどういう人たちで、彼らが仕事につけないのはなぜなのかを正しく把握し、課題解決していく必要があるのではないか
- 「非労働力人口」の中でもっとも多いのは65歳以上の人たちであり、特に女性が多い。社会保障の観点からもこうした方々の社会参画が議論されているが、特に女性の場合、以前から家事に従事していて外で働いたことがない人も多いことが推察される。単純な退職年齢の引き上げだけでなく、新しい社会参画の形を創出することが求められるのではないか

1 気仙沼ニッティングの概略

2 データから見る働き手の状況

3 柔軟で多様な働き方を実現するために求められた
経営上の工夫とチャレンジ(気仙沼ニッティングの例)

気仙沼ニッティングの仕事設計の背景と概要

- 気仙沼ニッティングの編み手さんたちは、子育てや介護、家業の手伝いなどのため、家を離れられず、仕事をしたくても外に出て働けない人が半数以上。また、一度も外で働いたことがない人も多い(「非労働力人口」になっていた)
- こうした人たちも編み手として働けるようにするため、気仙沼ニッティングでは、
 - 初めてでもできる
 - 自宅でできる
 - 自分のペースでできる(納期なし)
 - 好きな分だけ仕事できる(出来高制)という就労形態を取っている
- このような柔軟な働き方を実現するために、気仙沼ニッティングでは、スキルトレーニングと発注契約を組み合わせた形をとっている(現在の「労働者」の定義にはあてはまらない)
- こうした働き方を実現しながら、お客さまによろこばれる商品・サービスを提供し、採算の合う事業として続けていくには、経営上の工夫が求められる

編み手さんたちの事情 (再掲)

要介護の夫とふたり暮らし。現金収入はほしいが、外に働きに出ることは難しい。医療費で貯金もほとんど尽きてしまったし、年金だけでは心細い

まだまだ仕事はしたいが、70歳を過ぎているのでどこも雇ってくれない

食事の支度も孫の世話もあるので、週に1度家を出るのがやっと。でもなにか自分も仕事がしたい

幼稚園と小学生の子どもが2人いて、幼稚園のPTAもやっている。外で働くのは難しいが、すき間時間でできる仕事がしたい

震災を機に、家業だった会社を畳んだ。「〇〇屋の奥さん」と顔がわれているので、ほかの会社で働きにくい



多様で柔軟な働き方を実現するために求められた経営上の工夫 (気仙沼ニッティングの場合)

楽しいムード

家業や家事などに従事し外で働いたことがない人にとっては、外で働き出すことには特段の勇気がいる。楽しく取り組める雰囲気を作り、「あそこに行ったら行ってみたい」と思われる場になることが重要であった。「あの家の奥さん、働き出した」というイメージの軽減でもある)

自宅でできる 自分のペースでできる 仕事の設計

フルタイムの仕事についていない人の多くは、育児や介護、家事や健康上の理由などで、仕事をしなくても家を離れられない事情がある。また、どの程度仕事に時間を使い稼ぎたいかも人により異なる。このため、自宅でできる、自分のペースでできる仕事を設計する必要がある

人に求められる 商品・サービスの 発見と設計

売れないものを作っても売れない。売れないと続かず、いつか賃金も払えなくなる。仕事を生み出すためには、「人の手がかかり、かつ売れる商品・サービスを企画すること」が経営者にとっての最重要課題である

スキルの トレーニング

「誰でもできる作業」ではいい賃金を支払うのは難しい。(そして、誰でもつくれるものは、だいたい売れない) かとって、誰もが最初から職業的に高い力量を持っているわけではない。ふつうの人がプロフェッショナルになれるように、スキルトレーニングの場をつくる必要がある

品質管理

高付加価値商品であるほど、品質の担保は重要になる。仕事を自宅でやってもらいながらも、品質にばらつきが出ないようにするために、トレーニングに加え、品質チェックの仕組みが重要になる

地元のイベントや採用においても、デザイン・表現は大切に (例2)

気仙沼ニットイングは、
いいものを編む会社です。



KESENUMA KNITTING

私たちの仕事は、
着る人がずっと大切にしたいくなるセーターを
編んでお届けすることです。

一緒に、セーターを編んでくださる方を募集します。

気仙沼ニットイングは、気仙沼を本拠地に
手編みのセーターやカーディガンを編み、
全国にお届けする仕事をしています。
編むことのうれしさが、着る人にも伝わり、
何代にも渡って愛されるニットを編んでいきたいと考えています。

そんなニットを編んでいるのは、地域の編み手さんたちです。
編みものが好きで、お客さんに「一生もの」をお届けしたいという気持ちを
共有する人たちが、一緒に仕事をしています。
今回、編み手さんとして私たちの仲間に加わってくださる方を募集します。

編み手の仕事は、週に一度気仙沼の事務所に通っていただきますが、
あとはご自宅のできる仕事です。

ですので、気仙沼の方はもちろん、お近くの町の方々も大歓迎です。

編み手の募集説明会を開きます。よろしければぜひお運びください。



気仙沼ニットイングのセーター。
上：MM01 下：エチュード
写真・鎌上和美



当社の編み手のみなさん/イラスト・木下雅方

気仙沼ニットイング 編み手募集説明会

日時 *ご都合のつく日時のものにご参加ください。お申込時にご希望の日時をお伝えください

1月14日(木)	10:00～11:00	1月16日(土)	10:00～11:00
	13:00～14:00		13:00～14:00
	15:00～16:00		15:00～16:00

場所 気仙沼ニットイング 事務所

お申込方法 事前にお電話でお申込みください。

電話番号 [redacted] 受付時間/平日 10:00～17:00

気仙沼ニットイングの仕事の仕組み

採用

不定期で編み手募集説明会を開催する。希望者は全員、編み会に通ってもらうようにする



トレーニング

週に1度の編み会で、講師の先生より商品の編み方について指導を受ける(無料)



作業

作業は持ち帰り自宅で進める



品質チェック

編み会の場で商品チェック。寸法や仕様など、基準にあっているかチェックを受ける。合格すると納品。不合格の場合は、編み直し。



支払い

納品した商品の種類・数に応じて、出来高制で編み代が支払われる(商品の難易度によって単価も異なる)



基本は自宅作業だが、週に1度の編み会で、トレーニングと商品チェックを行う
希望者は基本的に全員編み会に来てトレーニングを受けられるようにし、支払いは出来高制

編み会は、技術指導・品質チェックの場であると同時に、交流の場でもある



編み手の仕事のステップ

- 難易度の低い商品から順に取り組み、技術を習得すると次の商品にチャレンジする
- 難易度の高い商品の方が編み代が高く設定されている
- 新しい商品を習得した人には年度末にボーナスが出る(ただし、会社業績にも連動する)



お客さんに手編みを楽しんでもらうための工夫の例



プロにしか編めないクオリティの商品



どの編み手さんが編んだかわかる仕組み



気仙沼では編み手さんに会うことができる

多様で柔軟な働き方を実現することによる、経営上のチャレンジ (気仙沼ニッティングの場合)

- 働き手が各自のペースで仕事をできるようにしているため、いつ・どれぐらいの仕事がなされるかが予測しにくく、生産計画を立てるのが難しい
- 全員がたくさん仕事をしてたくさん稼ぎたいわけではない。起業後、最大の誤算だったのは、予想より一人あたりの編む数が少なかったこと。大家族で住んでいる人の場合、家事と仕事の適度なバランスを好むと思われる(このため、生産量を増やすには、編み手の数そのものを増やす必要があった)
- 同じ作業を繰り返す方が好きで新しいことに挑戦するのが苦手な人も少なくない。難易度の高い商品の編み代を高くするなどの金銭的インセンティブだけでは不十分であり、新しいこと・難しいことにチャレンジすることが楽しくなる環境づくりが求められる
- 出来高制にしている分、完全実力主義になる。編み手は、編める商品のレベルや編むスピードが収入に直結する。なかなか編めるようにならない人にとっては大変

最後に一企業経営者に求められると思われること(特に地方の場合)

- 特に人口減少が進む地方においては、企業は「商品・サービス市場」だけでなく「人材市場」においても激しい競争に直面することになる。「モノが売れないから潰れる」企業だけでなく、「人が集まらないから潰れる」企業が増えるのではないか
- まず企業は、これから行う仕事のうち、どの作業はロボティクスや人工知能などに代替できて、なには人間がやるべきことなのか、見極めていく必要がある
- その上で、人間がやるべき仕事を人間が行えるようにするために、これまで以上に多様で柔軟な働き方を創出することが求められる。それは、「社会のため」であるだけでなく、人口減少が進み人材の確保が難しくなる中での、企業の基本的な生存戦略になると考えられる

ご清聴いただきどうもありがとうございました

